

(「運営内規」別表第2、「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」別紙7)

平成 30年10月30日

日本学術会議会長 殿

講演会、シンポジウム等主催提案書

シンポジウム「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」の開催について

1. 提案者 近藤孝男
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会
2. 共催：日本時間生物学会、日本生気象学会
3. 後援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日時：平成30年12月13日（木） 13:00～16:00
5. 場所：日本学術会議講堂、会議室1室（分科会開催のため）
（日本学術会議講堂と併せて会議室を使用する場合は、会議室数及び使用目的を必ずご記入ください。）
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：本年7月、日本オリンピック組織委員会は、2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに向けてサマータイムの導入を安倍首相に提案した。その後の報道によれば、自民党内に発足した研究会では、オリンピックまでの導入は時間的に難しいとの見解を示したとあるが、慎重論の根拠は、ITシステム改修の問題や、世論の反応であり、サマータイムがもつ健康面への問題点にはほとんど触れられていない。そこで、生物リズム分科会は、科学的な根拠を示して、人為的な時刻操作がヒトの健康に与える問題点、特に体のリズムを損ね、睡眠障害を引き起こすリスクや暑さ対策としての問題点について、シンポジウムを開催して広く市民に伝え、特に、海外諸国と比べ圧倒的な短時間睡眠の我

が国において、人為的な時刻操作がもたらす問題点を示して、制度導入について共に考える機会としたい。

8. 次 第：

司会 本間さと（日本学術会議連携会員、北海道大学脳科学研究教育センター客員教授）

13:00 開会の挨拶

近藤孝男（日本学術会議特任連携会員、名古屋大学名誉教授）

13:05-13:15 生物時計のしくみ

深田吉孝（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

13:15-13:45 サマータイムとヒトの生物時計（仮題）

本間研一（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

13:45-14:15 サマータイムと睡眠問題

三島和夫（秋田大学大学院医学系研究科教授）

14:15-14:25 休憩

14:25-14:45 サマータイムとシフトワーク（仮題）

久保達彦（産業医科大学産業生態科学研究所准教授）

14:45-15:05 サマータイムと室内温熱環境（仮題）

堀越哲美（愛知工業大学教授）

15:05-15:10 （セットアップ）

15:10-16:00 パネルディスカッション

座長 上田泰己（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

パネリスト 本間研一、三島和夫、久保達彦、堀越哲美

9. 関係部の承認の有無：※事務局対応

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）